

□ 書評 □

Serge Tixa(著) 奈良 勲(監訳)

触診解剖アトラス 下肢

黒澤和生

(国際医療福祉大学理学療法学科)

臨床での実務的な業務に役立つ有用な1冊

本書はスイスのオステオパシーローザンヌ校のSerge Tixa教授が著された本を奈良勲が監訳した翻訳版である。オステオパシー(osteopathy)とは、人体のホメオスタシスを増大し、自らの治癒力で病気を治していこうとする学問体系であり、手技による治療を主体とする療法である。徒手的治疗手技に関心のある方であれば、マッスルエナジーや筋膜リリースなどがオステオパシーの技術であることをご存知であろう。

この本に書かれている内容の背後には、そうしたオステオパシーの治療上の必要性から、体表からの位置の確認だけにとどまらず、骨、筋、軟部組織などのそれぞれの組織の走行と触診の仕方を独自に積み重ねてきた歴史的な流れが息づいている。徒手的治疗に興味を持っている理学療法士や作業療法士だけではなく、広く医療関連職種の方々にも臨床の現場に置いて実務的な業務に役立てて欲しい1冊である。就職して間もない頃、整形外科医のバイブル“Physical Examination of the Spine and Extremity”の原書を手に入れたときに大変感動し、しばらく持ち歩いていた記憶がある。この本は、そんな感動を覚えた1冊である。

豊富な写真と簡潔な触診法

228ページより構成されたこの本は、385枚の写真と5つの章(股関節部、大腿部、膝関節周囲、下腿部、足関節)に分けられ、それぞれが骨学、筋学(筋、腱)、関節学(関節および靱帯)、神経および血管の項目で構成されている。体表解剖学の成書や理学的所見のとり方に関する本では、これまで組織を体表から特定するこ



とが中心に説明されていたが、この本では軟部組織をどのように触診していくかが大変親切に書かれている。筋に対しては等尺性収縮により浮き上がらせ、靱帯、神経については伸張させる方向にストレスをかけるなど、基本的な触診の方法を一貫して分かりやすく写真を多用して示している。また、巻末の和文索引と欧文索引は、解剖学の履修や解剖学実習、触診の実習などで活用しやすいように工夫されている。

詳細な解剖学を学ぶことは、医療職にとって必須であるが、実際に体表から骨、筋、軟部組織などを触診するとなると非常に難しい。理学療法士にとっても触診は大変重要な技術であり、学生時代より系統的な学習を取り入れていくことが必要である。

本書は、理学療法士、作業療法士、あるいは医療従事者にとって実用的な書となるだけでなく、率前教育の解剖学と臨床との架け橋となる触診解剖学の新たな始まりを予感させてくれる。続編の「触診解剖アトラス：頸部、体幹、上肢」の完成が待ち遠しい。

● B5 頁228 図18 写真385 2001

定価(本体4,800円+税) 送料実費